

韓国の国防改革、中心は「北朝鮮を震い上がらせた軍人」

韓国政府は2023年6月初旬に発表した国家安保戦略で北朝鮮を「最大、最優先の安保脅威」として安保戦略の土台に米韓、日米韓の協力強化を改めて示した。これに先立ち尹錫悦大統領は、自らが委員長を務める国防革新委員会のリーダーに「北朝鮮を震い上がらせた軍人」として知られる筋がね入りの強硬派、元国防相の金寛鎮氏（73）を抜擢し、韓国軍を「圧倒的な戦闘軍」に立て直す「第2の創軍」を行う指針を示している。文在寅前政権で緩んだ韓国の国防は、一気に引き締めと革新の時代を迎えたようだ。

韓国の国家安保戦略は政権の最上位に当たる指針で、国際社会に現政権の方向性を示し、北朝鮮に対する戦略が明示されることで注目度が高い。

尹政権は自由民主主義などの価値観を重視する「グローバル中枢国家」を目指すとして強調、米国を「包括的な戦略同盟」、日本を「普遍的価値を共有する重要な隣国」とする一方で、中国をこれまでの「戦略的協力同伴者」（文在寅政権下の戦略）から「健全で成熟した関係」と事実上格下げした。ロシアには「対露外交を全面的に再検討する必要が浮上」と言及、改めて安全保障環境について日米韓対中露の戦略構図の認識を示した。

発足から1年余。尹政権で対北戦略は全方面の変化を実現している。

「国防白書」（今年2月）では金正恩氏の敬称を外した。「金正恩」と呼び捨てで表記し、休戦状態の北朝鮮を「主権、国土、国民、財産を脅かし侵害する敵」と「主敵概念」で再定義した。また政府として「北朝鮮人権報告書」（3月）を初めて公表、北朝鮮が最も嫌う政治犯収容所や公開処刑など人権蹂躪の生々しい証言を公開。国際社会では、国連人権理事会で北朝鮮の人権侵害を非難する決議案の共同提案国に5年ぶりに復帰し、採択に加わった。そして4月末の米韓首脳会談で「ワシントン宣言」を発表、北朝鮮のエスカレートする核恫喝に、米韓軍事同盟が拡大抑止を格上げしたことを宣言、北朝鮮に突き付けた。

こうした多方面の政治的側面の外堀を埋め、本格機動を始めたのが本丸の軍事強化、韓国の国防改革だ。

■レーザー・キムが帰ってきた

尹大統領は2023年5月、第1回の国防革新委員会で「第2の創軍レベルの大々的な変化が必要だ。勝てる戦闘型強軍を作る」として、北朝鮮の核ミサイルに「圧倒的な対応能力」と「北全域への偵察監視、分析能力、超精密打撃能力、対空防衛能力を確保する」として「これを統括する『戦略司令部』を創設する」と述べた。

そのうえで、委員長である大統領の意志を具体化する副委員長に「北朝鮮を震い上がらせた軍人」として知られる金寛鎮・元国防相を任命した。この人事は韓国内だけでなく米国など関係国の耳目も集めた。

金氏が北朝鮮に対し、いかに強硬派であるか、その実績が米韓軍ではよく知られているか

らだ。2010年の国防相時代、強硬対処で北朝鮮の挑発を止めた事例はワシントンで「金寛鎮効果」と言われた。北朝鮮では、金寛鎮氏の仮面をかぶせた人形で射撃訓練を行い、北朝鮮の組織は国防相時代の金氏に暗殺予告の脅迫状を送ったこともある。

ワシントンで有名になったのは、李明博政権下の2010年11月、延坪島砲撃事件後の強硬策だ。韓国紙「朝鮮日報」によると、砲撃事件発生3日後、李大統領は除隊していた金氏を呼んで「(韓国軍が) 応戦してソウル攻撃があったらどうするか」と聞いた。金氏は即座に「北朝鮮の気を折らなければやられる」と答えた。約1カ月後、国防相に就任した金氏は再び軍事訓練予告で挑発してきた北朝鮮に向け、日時に合わせ戦闘機を出撃させ、「戦闘機にはミサイルを搭載した」と意図的に流して北朝鮮のエスカレートを止めたという。

朴槿恵政権時代も国防相を務め、15年にも金氏は北朝鮮の地雷による挑発に強硬に対抗した。北側に155mm自走砲・発射機を撃ち込んだことがある。このときは北朝鮮が譲歩、交渉を提案してきて南北高官級会談が開かれ北朝鮮側に「遺憾の意」を表明させた。

金氏は陸軍士官学校出身のドイツ留学組だが、ゴルフもせず軍一筋の野戦の硬骨軍人で2008年、合同参謀本部議長を最後に引退した。敵への反撃を語るときの強い語調と鋭い眼光からあだ名は「レーザー・キム」。国防改革を率いることとなり、「帰ってきたレーザー・キム」といわれている。有名な所信は「北朝鮮が挑発してくれが10倍報復し、敵の指揮系統と原点を攻撃せよ」である。

■役に立つなら力を貸す

委員会は2022年12月に大統領令で新設された大統領直属組織で、尹政権の国政課題「国防革新基本計画」(国防計画)を推進する司令塔となる。尹政権の国防計画は、人工知能(AI)を基盤とする科学技術による軍強化が旗頭で、韓国で深刻化する少子化にも備えた先端兵器開発や部隊編成、戦略概念、中期計画まで包括する内容だ。新委員会(11人)は国家安保室長や国防相など政権幹部も入るが、金氏はその上に立ち、大統領が欠席する場合は代行する。

金氏の人事は尹大統領の肝いりだったという。韓国で国防改革はすでに20年以上にわたり3回、行われているが、金氏は現役の軍人時代の実務者、管理職、国防相として携わったプロだからだ。

しかし、実は尹大統領と金寛鎮氏は因縁がある。2017年、ソウル中央地検に軍刑法違反容疑で逮捕された。軍サイバー司令部にネット上で革新系野党を非難させた政治工作の容疑で、このときのソウル中央地検長が実は尹大統領だった。北朝鮮強硬派だった金氏は文前政権にいらまれ捜査を受けた。最高裁まで争われ、現在は差戻しの状態。だが、金氏は尹大統領の副委員長要請に「役に立つなら力を貸す」と述べたとされている。